

## 令和6年度 アオコ情報（新川5）

9月5日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度<sup>※1</sup>は、神天橋でアオコレベル2相当、新港橋でアオコレベル1相当<sup>※2</sup>でした。
- アオコが発生している地点では、植物プランクトンであるミクロキスティスが見られました。

### 1 新川のアオコレベル

- 真鍋橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 城北橋でアオコレベル0相当（フィコシアニン濃度： $< 5 \mu\text{g/L}$ ）
- 神天橋でアオコレベル2相当（フィコシアニン濃度： $225 \mu\text{g/L}$ ）
- 新港橋でアオコレベル1相当（フィコシアニン濃度： $54 \mu\text{g/L}$ ）

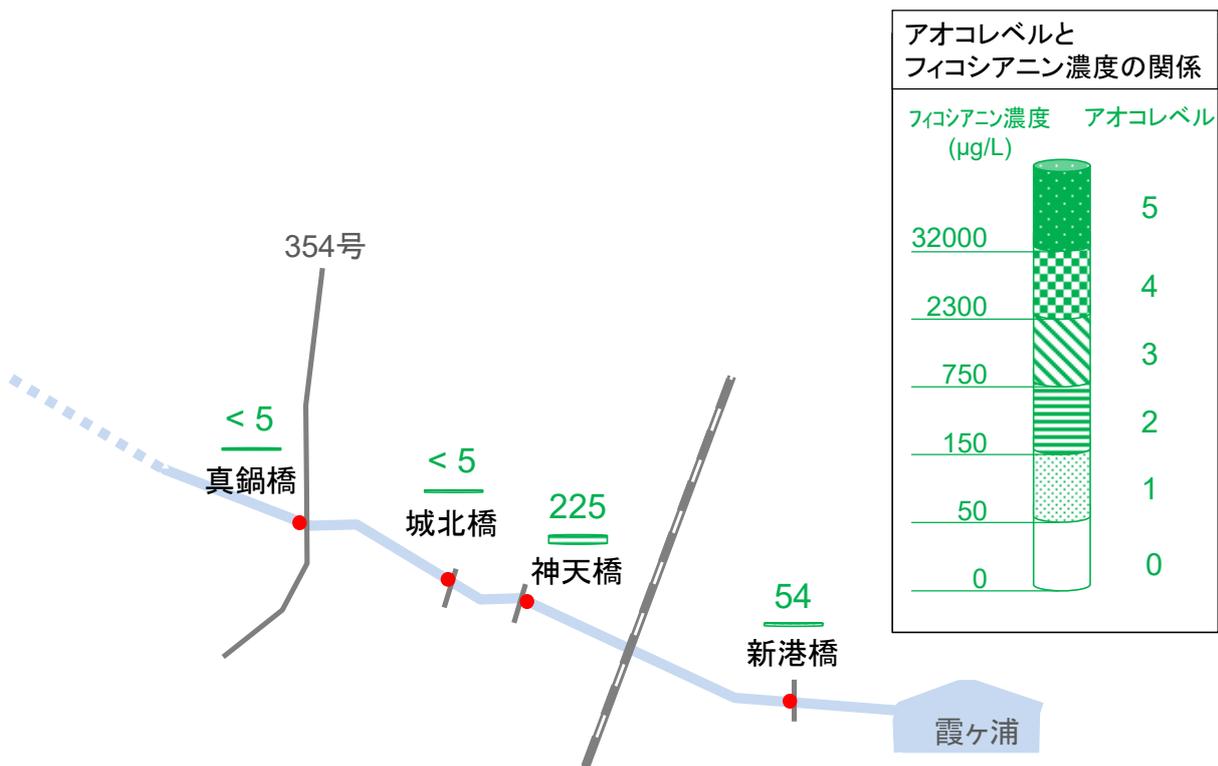


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

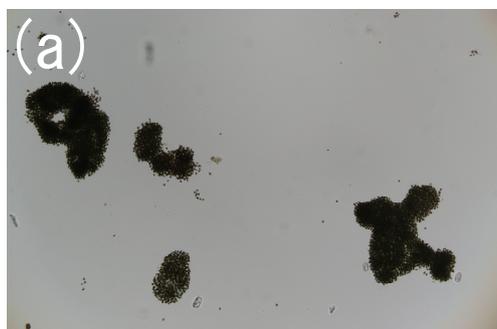
アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP：<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で  $50 \mu\text{g/L}$  程度、アオコレベル2で  $150 \mu\text{g/L}$  程度、アオコレベル3で  $750 \mu\text{g/L}$  程度、アオコレベル4で  $2300 \mu\text{g/L}$  程度、アオコレベル5で  $32000 \mu\text{g/L}$  程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

## 2 アオコを形成している植物プランクトン

- 神天橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(a)、群体を形成していた。
- 新港橋 (アオコあり) : ミクロキスティスが見られ(b)、群体を形成していた。



※(a) 及び (b) とともに、点のように見える一粒一粒がミクロキスティスの細胞

● 調査結果の詳細

表 調査結果

|                | 新 川  |      |       |       |
|----------------|------|------|-------|-------|
|                | 真鍋橋  | 城北橋  | 神天橋   | 新港橋   |
| 採水時刻           | 9月5日 | 9月5日 | 9月5日  | 9月5日  |
|                | 9:35 | 9:50 | 10:00 | 10:15 |
| 水温(°C)         | 26.2 | 26.4 | 26.9  | 28.4  |
| pH             | 7.4  | 7.6  | 7.7   | 7.7   |
| EC             | 26   | 25   | 24    | 44    |
| 透視度 (cm)       | > 50 | > 50 | 34    | > 50  |
| フィコシアニン (µg/L) | < 5  | < 5  | 225   | 54    |
| クロロフィルa (µg/L) | 2    | 2    | 81    | 25    |
| TN (mg/L)      | 2.1  | 2.0  | 2.4   | 4.5   |
| TP (mg/L)      | 0.10 | 0.10 | 0.15  | 0.10  |

【アオコレベル】

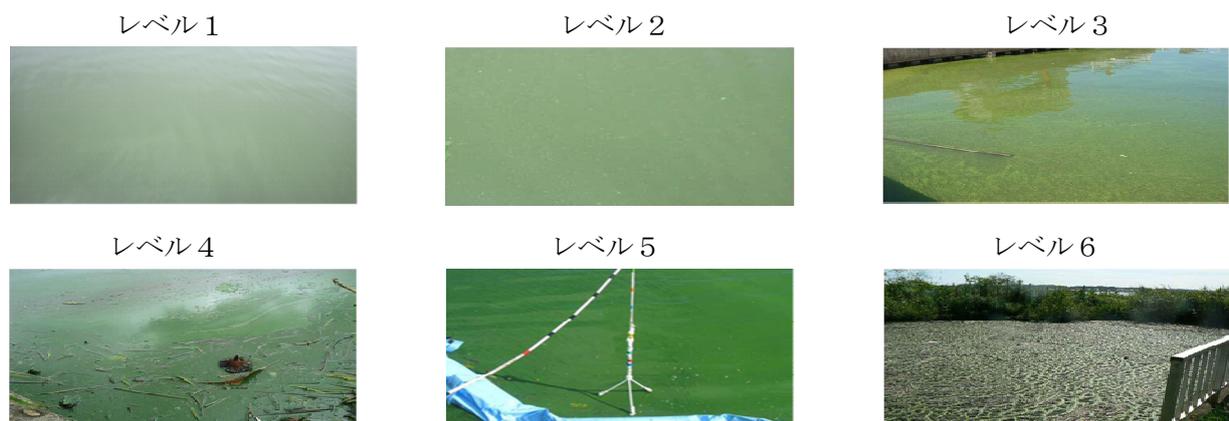


図2 アオコレベル